

平成 28 年度第 1 回「三番瀬専門家会議」結果概要

1 概 要

- ・日 時 平成 28 年 10 月 26 日（水）午後 5 時から午後 7 時まで
- ・場 所 千葉県国際総合水泳場 会議室（習志野市）
- ・出席委員 4 名（岡安委員、古川委員、村上委員、柴田委員）
- ・議事「平成 28 年度三番瀬自然環境総合解析」について出席委員から助言をいただいた。その他、「第 3 次事業計画評価（案）及び今後の三番瀬再生の進め方（案）」について報告した。

2 主な意見等

（1）平成 28 年度三番瀬自然環境総合解析

①最終的な取りまとめのときには生態系という項目を設けて欲しい。また生態系については様々な視点があるが、例えば物理環境のシステムがどう対応しているのかを考察するというのも、生態系の解析につながるのではないかと。

②潮汐の評価について、シミュレーションしなくても、潮汐の振幅は外的要因からほぼ変わらないと仮定して、水深が変わったときに平均の潮流はどのように変化するかについての定性的な評価はできると思う。

③貧酸素水塊が発生したときに、三番瀬の中の方が早く酸素が回復してきているので、三番瀬の中での酸素供給、酸素生成の機能の要因について、生物、地形、循環の変化等、他の生物の調査データ等と比べて考察して欲しい。

④漁獲対象種になっている稚魚について、漁獲量のデータとの対比状況はどうか。また、スズキは種苗生産していたが、現在は放流が無くなったので、その影響はどうか。

⑤底質の影響が底生生物などに大きな影響を与えることなど、今後の傾向を含めて予測をして欲しい。また、予測をするに当たって、確実な予測をすることは難しいと思うので、理屈、メカニズム等について十分に考察した上で、確定事項や推定事項等については分けて考察して欲しい。

⑥インパクト・レスポンスフローについて、三番瀬という半閉鎖性の海域の空間特性を反映するようにして欲しい。

(2) 第3次事業計画評価(案)及び今後の三番瀬再生の進め方(案)

①三番瀬再生計画基本計画に記載してある三番瀬の再生の推進方法では、事業計画を作って事業を進めると記載しているにもかかわらず、それに対応する計画が無くなるのはとても心配である。

②各事業が各課で行われるから良いとのことだが、三番瀬を再生・保全していくときに、課をまたがった組織や、事業計画がなくなるということについてとても危惧している。

③東京湾再生推進会議や、各連携フォーラムなど総合的に取り組む流れがあり、また当時の再生のときにも各課をまたがった総合戦略を作って取り組みなさいということがあったが、このような大きな流れに沿っていない気がする。

④三番瀬について、統一的な方向を定めるのはなかなか難しい部分があると感じているが、客観的に見ると、古川委員と似たような感覚を持ってしまう。

⑤大きな組織であるので、担当部署が調整するのは難しいのではないか。また、一市民の立場からすれば、具体的な計画を実施するところがないと、三番瀬の問題を投げかけにくいのではないか。

⑥各担当部署で実施している事業は、その事業の中で適切にやられていると思うが、全体のバランスを見る場も必要なのではないか。

平成28年度第1回「三番瀬ミーティング」結果概要

1 概要

- ・日時 平成28年10月29日（土）午後2時から午後5時まで
- ・場所 船橋市中央公民館 第3・4集会室
- ・第一部では、横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター客員教授 古川恵太氏（三番瀬専門家会議委員）に、「日本の沿岸域の現状と干潟・藻場再生の意義」について講演していただいた。
- ・第二部では、県から「平成28年度三番瀬自然環境総合解析」、「第3次事業計画評価（案）及び今後の三番瀬再生の進め方（案）」について報告後、意見交換が行われた。

2 主な意見等（第二部）

（1）今後の三番瀬再生の進め方について

①次期事業計画を作らないという方針だが、三番瀬再生は情報公開と住民参加で推進してきたのに、非常に残念である。継続するミーティングでは、担当課が引き継いだ事業は、ミーティングの場で進捗状況の報告をお願いしたい。

②専門家会議が無くなり、全体的な長期的なプログラムを作るときのアドバイスを受ける場所が無くなるのが非常に残念である。専門家会議は続けて欲しい。

③各担当部署で対応するというのではなく、全体の中で議論をして欲しい。

④10年前は出来なかったことでも、今ならできることもあるかもしれない。県として、三番瀬を100年かけても良くするという気概があれば、ミーティングで意見を聞けば、事業計画や専門家会議を終了しても良いということにはならない。

（2）干潟的環境形成検討事業、湿地再生事業について

①古川委員は、東京湾では干潟的環境を進めているのに、県では終了するというのは、少し引っかかる。

②干潟、湿地再生を終了するという事について、長期的によくするためにはどうすればいいのか知恵を出し合ったほうがよい。

③人工的に干潟を造った方が、そこにアサリがわいたり、稚魚が寄ってきたり、産卵したりするので、人工干潟は必要である。

（3）青潮・貧酸素水塊について

①今年は貧酸素水塊の影響を大きく受けたので、青潮はもちろん、貧酸素水塊がどのように漁場に流れ込むか等を今後調査してもらいたい。

②青潮が発生したときに、水塊の影響がいつまでもアサリに影響するので、干潟を浅くした方が良い。

(4) ラムサール条約登録について

①ラムサール条約登録に向けて、予算を付けて、パンフレットを漁業者全員に配るなどアクションをして欲しい。

②埋立て等を規制して守ってくれるラムサール条約の登録を具体的に進めた方が、漁業のためにもよいので、早急に登録するために、県の方でリードして進めて欲しい。

(4) ふなばし三番瀬海浜公園前の清掃状況について

①ごみ拾いのイベントの頻度を多くして、大きくPRして欲しい。

(5) その他

①三番瀬に悪影響を及ぼしそうな土地の利用について、議論をする必要がある。